2020 年 3 月 31 日

事　業　報　告

青森公立大学
教　授　　香　取　真　理

平成 31 年度において、公益財団法人青森学術文化振興財団より助成の採択を受け、下記の事業を実施した。

〇事業の名称

平成 31 年度　インバウンド需要に応えるための効果的な短期英語習得法に関する研究事業

〇事業内容

効果的な外国語習得方法・教授法は学習者によって多様であるが，現実的には，数十名の学習者とインストラクター1 名で授業運営が行われているのが一般的である．本事業では，CR(Communication Robot)や，インターネットを通した，対話システムを利用し，本人の希望や学習歴，進度などを確認しながら，1 対 1 での会話練習を行い，効果的な短期英語習得方法を検証した．

本事業では，ユーザ（受講者）に CR を使用して会話練習を行ってもらった後に，インストラクターのアバターと 1 対 1 での英会話学習を行った．アバターを使用してのクラス展開により，対面型では限界があった，共時的クラス展開が可能となった．また，インストラクターの画像を元にアバターを作成することにより（図 1 参照），ユーザも，お互い（アバターと自分）を認識しながら効果的に会話を進めることが出来た．

アバターには試行的に非言語表現（頷き，アイコンタクト，瞬き，手の動き）などの動きを組み込みその効果を検証した．非言語表現を提示することにより，ユーザはアバターが話を理解し，共感していると感じ，効果的な 1 対 1 の英会話授業が展開できた．また，システムに組み込んだ様々な観光スポットなどをアバターの背景として表示し，臨場感を高めながら会話練習を行った．

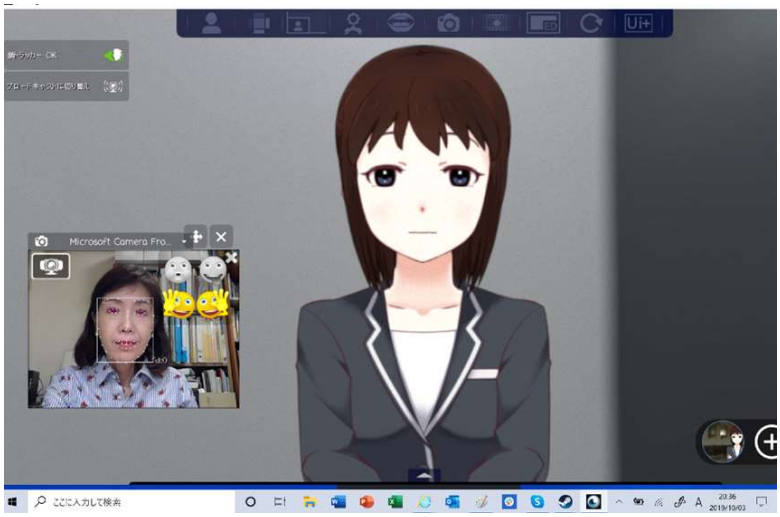

図１.

これまで，１対１の英会話練習では，対話者の立場（大学教員）や役割が，ユーザによっては，ユーザの立場によるアイデンティティーの影響を強く残す結果も見られたため，本事業では，会話の内容によっては，アバターの外見を変え，別の人物（例：ホームステイ先の家族や旅行者等）となるシステムを考案し，実験を行った．検証の結果，アバター使用による英会話練習では，ユーザのアイデンティティーを変化させることが若干容易になったり，より積極的な発話を引き出すことが可能となった．

青森市民・県民が，それぞれの経験や能力に応じた英語力を短期間に習得するための英語学習システムを構築することは，青森市民・県民の英語運用能力向上に役立つと考えられる．また，今後更に研究を発展させることにより，青森のインバウンド事業に貢献すると共に，青森の文化・学術水準の向上にも貢献できると考えている．

研究の成果については、日本英語コミュニケーション学会に研究論文として発表している。
https://www.jasec.xyz/blank-1
（リンク先：日本英語コミュニケーション学会 Web サイト）

※なお、論文掲載のアップデートついては、タイムラグがあることをご理解いただきますようお願いいたします。